

每月一日十五日發行
編輯兼發行人 佐藤誠
福島縣平町材木町二〇
東北新報社

記念號に就て

吾人も一段の努力をなし社會と奮戰
以て諸賢の御期待に添へ度く存じま
す。

茲に其御禮の印として来る四月廿九日（午後六時）天長節の佳節を卜しまして映畫の夕べをば當町平館へ開會、廣く皆様に公開致したく従前の恩儀の萬分の一なり共報ひたいと思ひます。何卒當日には豫て當町各有名商店や御後援の皆様の御手元まで特等招待券や無料入場券を廻してあります故、必ず御忘れなく御利用下被度御願致しておきます。

昭和十一年四月廿五日

東北新報社

各位

修藤陽倬

郷土を想ふ

吾社の都合により永らく休
み居りし我郷土を想ふの記
事も石城郡の中心たる當平
町としての分は大概前述の
如くであるが平市となるま
めには幾多の難局がある様
で現に隣村とても其合併に
就ては二三の反對があるに
聞き及びしも平町長や同町
會の方々としても甚だ頭を
痛める事と思はれる

其内でも自分が殊に記憶に
たい一人であるけれど其鋪
する事は舊五月頃に取れる
裝たるや平町の本町の様に
『ドロヒラメ』であるが少
しの寒氣のために「セメヒ
ラン」が剝れて下地が現れ
るが其點に付ては當小名
濱として其心配には及ぶ事
に想はれた、それと反
對最近では漁の仕方と云ひ
父漁船も大きく且つ多くな
くすして數萬坪の海面をば
り日本全國の海の魚は愚か
埋立工事に余念なき而もそ

一步しりぞけて小名濱の世界中の魚類が産地よも産れが小名濱の町長さんなる方を少しく書いて見たいと地と飛行機で運送されると小野晋平氏が數千の工夫を考ふる時、當小名濱町の昔云ふ頗る的交通の便をきた使用して工事に進展してゐるにさかのぼり自分等が子供したにもかゝはらず諸物貨たる其町長小野氏の揮下活の時分今より四十年前の事と共に魚類も亦其値暴騰す動してをらるゝ町會議員連七八年の日清戦争の前後とならぬ中が實現する道路なれば決

思はれるが自分は子供心に從つて當小名濱町としてもして疑ふの余地なき事と確
思はれた記憶を呼び起す時に月に繁榮を來たし其頃信して可なりとするもので
にその頃は大變小名濱を中の小名濱はにてもにつかぬある。
心として各濱共四季の別な程度まで人口、家屋の密な今や小名濱は新港灣の魁
く漁が多くために魚の値もるを得、而して今日で石城として東北の天地に其つば
今日の五分的一位で尤も其七濱中の第一位を示してゐる事を伸ばし國を舉げしの工
當時はお米が一升十錢か十るといふ事は時代の然らし事たるや完成に近きまでに
二三錢と記憶して居り、そむると共に小名濱町民とし到達せられ居る事は何人も
れに其時には魚の種類も少なくての城に天恵とする處であり知る處であらう。不一方には

ソシ、ヒラメ、アジ俗にする。最近の小名濱で四十年前云ひども茲一二年の間にはガボウ、タコ等が重なるものと思はれたが何れも大漁の昔より見るに今も昔も變何れを通ずるなり完全なるの時二足三文で買はれた事らぬ點は道路の點であるが開通の機運に向ふ事は言を今更ながら記憶される。或は昔より比ぶれば交通機またずして明白とゆはねば

金物類
は
金屋
電話九九九

草野新校長

大平先生着任祝辭

大平喜一郎君は草野村下神谷生れにして先生の小學校卒業當時は草野神谷組合校であり私等の先輩であつた事を記オクする。

石井玉川新校長の
着任に就ての祝辭

係上現在草野校の處と他は石井定衛先生は福師出身のく小名濱校の首席として榮
 花園神社の境内にあり、又秀才で神谷校に着任首席と轉するや四十余名の教員諸
 教室の不足なるが故に、來して迎ひられ數年にして去氏の上に立つて其手腕力量
 光寺院をも使用せられたる昭和八年小名濱校の首席を揮つたものだ。然るに小
 め同寺院に埋葬のありし時へと榮轉せられたる事は誠名濱町としても町民一同が
 には休業の止むなきに至りに憾喜の至りに耐えず、よ石井先生の教育に對する愛
 たる事多々ありし事を想はつて先生として神谷校に在撫の精神とに感謝せざるも
 れた。りし其教育振りの熱心さをのなかりき。
 斯る時にても大平君の如委しく書いて皆様に御披露
 さは地方教育に着眼せられする次第である。

爲めに小學校卒業後は専心
抑も――吾人は石井先生
教育學に熱誠を込め福師入
を知つたのは六七年前の事
校後、先輩をして其實力の
下予が病氣靜養中で神谷校
魁たるに驚かしの福師卒業
にて始めて御目にかゝり其
後は教育の實驗に精神を盡
當時は誠に活氣ある青年教
したれば縣當局の見る所と
員として思はれたのみであ
り一昨年高等官に任せらつ
たが、其後二三回教育に
就くも意見も耳聽兒童の致
豊間校長に榮轉せられん專

生をして玉川校の校長とし
て榮轉せしめたる事は誠に
石井先生の教育に對する處

***は松ヶ岡
印刷は昭和
たひらみなみまう

心以て教育に盡せられ同村育等も拜見するに實に其熱の實力の然らしむるによるの人氣を一手にあつめ、豊と力のこもつた處は良く兒と共に縣當局としても大に間校の名譽は日に月に石城重へも感應するものか石井先生の人材良しき事に着眼郡内に輝き渡るに至りたる先生の教鞭振りには實に驚入しての榮轉と思はれる茲に事は是れ偏に大半先生の教つたものであつた。故に神編の愚見を呈して石井先生に對しても亦兒童の父母谷村としても石井先生の出生の榮轉の祝辭に替へる次に對しても敬愛の心に深か世を期して居つた、まもな第である。

は松ヶ岡

印刷は昭和

五周年記念

前代議士 佐藤庄太郎	平料理屋組合
元代議士 木村清治	平鍛冶町 吉田伴吉
衆議院議員 氏家清	郡山無盡會社
比佐昌平	平町南町 増田醫院
鈴木辰三郎	小松酒造店
元縣會議員 井上茂作	カフエーパラダイス
田子健吉	酒井醫院
萩原義雄	大町 明治生命
縣會議員 關内正一	平地方募集所
小野晋平	田町 萩原申八
蓮沼龍輔	平一丁目 白土屋米穀店
野崎滿藏	市原木炭商店
草野三郎	聚樂館
小松章	常盤屋時計店
平町長 青沼鋒太郎	大平藥店
神谷村長 片寄爲藏	坂本紙店
草野村長 芳賀辨之助	關彰商店
神谷校長 井上純	和久屋漆器店
草野校長 大平喜一郎	二葉屋家具製造工場
玉川校長 石井定衛	平二丁目 三井タクシ
平土木監督所長 小林清吉	谷口樓
平五丁目 諸橋久太郎	花澤米店
平町 諸橋敬一郎	尼子タクシ
古鍛冶町 山崎合名會社	西村藥局
平二丁目 平町 庶民金庫	柏原眞吾
片倉製糸株式會社	關内正一
平五 磐城建物株式會社	根本時計店
平藝妓屋組合	大一屋荒物店
	白土屋荒物店

平二丁目 大村屋旅館	堀藥局	平四丁目 伊勢屋商店	平立町 正木建具
白土屋たばこ米穀店	平三丁目 山田忠太郎	スガノヤ商店	平七丁目 佐藤佐一郎
なかみ洋服店	藤居果實店	渡部米穀店	橋本表具店
片澤タクシ	横山彰介商店	山光堂自轉車店	熱心湯
大黒屋勝治商店	三井吳服店	十一屋食堂	伊澤ブリキ店
太丸屋	丸ほん	入江せともの店	平鎌田町 青木龜吉
カフエー花月	平町二丁目 川岸通	釜屋商店	猪狩産婆
平	大黒屋酒店	モリタヤ洋品店	金成醫院
小松崎洗張本店	平三丁目 大勝園茶舗	泉屋菓子舗	岡田千藏
福島モーター	平出張所	山野邊藥局	バラックヤ雜貨店
星製藥	三丁目北通り	スビーデー商會	草野七五三之助
蛇の目壽し	カフエーパソカス	植村眞店	平五色町 檜山謙
カフエー天	三丁目 杵壽し	平製氷株式會社	阿部治作
カフエー平會館	平四丁目 マルトモ書店	昭和活版所	平鎌田町 金成國雅
運動具店	三丁目 食堂	織田齒科醫院	菅野勘助
丸一屋鮮魚店	平四丁目 丸一屋鮮魚店	平町田町 あつま美容院	住吉屋支店
關内藥局	平五丁目 丸一屋鮮魚店	才樋小路 金子提燈店	住吉屋分店
鶴屋商店	平六丁目 丸一屋鮮魚店	平三丁目 大谷時計病院	世界館
		平五丁目 丸一材木店	平電力株式會社
		平大町 多田井質店	野崎自動車商會
		中川材木店	富永ラヂオ店
		平新川町 橋本神佛具店	甲陽館
		松崎屋硝子店	五十嵐酒店
		田中宣治	永山勇吉
		松崎商店	大崎屋洋服店
		谷屋吳服店	石川亭
		松崎長太郎	平町一丁目 川岸通り
		大黒屋雜貨店	富士食堂
		平月見町 根本米穀店	平白銀町 田邊商店
		平町六七丁目 佐藤榮吉商店	平町驛前 神谷商會
		荒川淺次郎	
		才樋小路 志賀材木店	
		馬目酒屋支店	
		平才樋小路 博盛堂造花店	
		瀬尾藥局	
		堀江工業株式會社	
		綠川喜三郎	
		阿部政右門	
		大角茶舗	
		菊地自動車部	
		佐藤材木店	
		色川材木店	
		武藏鐵工場	
		八幡小路 學生館	
		吉田金作	
		平町水道配水所	
		松井常松	
		古鍛冶町 木澤	
		平町研町 佐々木喜平	
		白萩酒店	
		吉村綿店	
		平紺屋町 日本簡易火災	
		平駐在所	
		吉田寅之輔	
		織田材木店	
		住吉屋本店	
		清水屋旅館	
		扇屋旅館	
		野木履物店	
		平材木町 石山一二	
		長瀬米穀店	
		松葉館	
		平町一丁目 川岸通り	
		富士食堂	
		平白銀町 田邊商店	
		平町驛前 神谷商會	

和洋家具日掛販賣

御案内

皆様よ!!!大和民族が相互に天恵の浴する處は絶大でありませう、殊に春の花見季節となりますと、何もかも浮かれ出て来る様で人類をして花に心を引かれるかの觀あるを見た時には、家庭に於ても又家具の新調をも御考へ遊ばす事と思はれます。茲に當店と致しまして多年懸案とされて居りました家具日掛販賣の實行に入りたいと思ひます、何卒皆様にお願いいたします、一日も早く御申込下さる様お勧め致します。尚ほ希望の方は當店より遣します日掛募集人に御申込があれば直ちに實行致します。◇日掛方法を申上ります

- 一、一人一口 一日金拾銭の事
- 一、一人一口 一ヶ月金參圓の事
- 一、満期 六ヶ月の事
- 但し一ヶ月毎に一組に五名様へ十八圓の品物を御渡し致します
- 満期前に物品御受納の方に限り引受保證を要します

一葉屋和洋店

平町一丁目川岸通り